

今週（12月18日から12月22日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が360兆円台後半から始まり、20日の国債の大量償還・利払いを受けて370兆円程度まで増加した。無担保コールO/Nは今週から新しい積み期間に入ったことで、先週よりも落ち着いた展開となり、概ね▲0.07～▲0.04%のレンジで取引された。信託・大手証券からの調達水準は▲0.06～▲0.04%。地銀からの調達水準は▲0.05～▲0.04%が中心であった。週間の無担保コールO/N加重平均レートは▲0.04%台での推移となった。ターム物に関しては、基礎残高に余裕があると見られる先からの、年内のターム物で▲0.045～▲0.035%の出会いが中心となった。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、21日に2W・8,000億円と3M・5,000億円がオファーされた。2Wは応札額5,220億円（期落ち額3,021億円）、3Mは応札額20億円（期落ち額120億円）で共に札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、週を通して業者や投資家のオファーが多く見られたものの、投資家のキャッシュ潰しのビッドがしっかり入り、レートは政策金利残高にかかる▲0.10%近辺で推移した。18日のS/Nは、国債の大量発行日に当たり業者の売り物が多く見られたものの、ビッドサイドの投資家のキャッシュ潰しニーズが強かったため、レートは前週末より小幅上昇にとどまり、▲0.10～▲0.095%の出会いだった。翌19日のS/Nは、▲0.095～▲0.09%での出会い。翌20日もS/Nは▲0.095～▲0.09%での出会いとなった。21日のS/Nは短国3M物の発行があったものの、こちらビッドサイドのニーズが強く、レートは横ばいの▲0.095～▲0.09%の出会いだった。22日のS/Nは、ビッドサイドのニーズが一服したためか、レートは小幅上昇し、▲0.095～▲0.085%での出会いとなった。

SCIについては引き続き10Yの330番から340番台でタイトなレートで取引される銘柄が多く見られた。個別銘柄では2Y379～382、5Y130～133、10Y336～348、30Y51～56などのカレント近辺の銘柄にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は年末を控えて慎重姿勢が強まったものの、駆け込み気味の買いニーズ等もあり、2回実施された入札を含めて堅調な相場展開が続いた。

18日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.15%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1547%、按分落札利回▲0.1497%と前回債からレートは上昇したものの、小じっかりした結果となった。セカンダリーでは、▲0.16%出会いと強含みで推移した。20日に実施された3M物の入札は、償還日（2018年4月5日）が年度末越えとなるため強めの結果となることも予想されていた。WI取引において▲0.19%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1881%、按分落札利回▲0.1751%と按分レートが流れる結果となった。セカンダリーでは、▲0.19～▲0.18%の出会いと底堅く推移した。

22日に実施された短国買入オペは、予想上限の1兆円でオファーされた。業者の在庫が膨らんでいることや年末を控えた調整売りからか、平均落札利回較差+0.004%、按分落札利回較差+0.003%と小甘い結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、賞与等の年末支払い資金調達にあたり、機械・鉄鋼・石油・化学・小売・建設・不動産・ノンバンクなど幅広い業態から大型の発行案件が見られ、先週同様活況なマーケットとなった。週間償還総額1兆1,000億円程度に対して発行総額1兆4,000億円程度となる等、発行環境の良さから積極的なCP活用が続いている。また市場残高は12/21時点で17兆7,000億円まで積み上がっており、年内最終週には、一時的に18兆円台に乗る可能性も高いと思われる。発行レートは引き続き月内物で0%近辺が中心となっている。年越え物については、一般事業法人を中心に四半期末の有利子負債を削減する発行体が多いことや、次回CP等買入オペが5,000億円に増額されたことによるオペ見合いの買いからか、浅いマイナス圏での発行も見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 （億円）
12/18（月）	22,901.77	0.035	112.66	△ 0.046	△ 0.100	3,673,100
12/19（火）	22,868.00	0.035	112.62	△ 0.048	△ 0.094	3,686,800
12/20（水）	22,891.72	0.050	112.95	△ 0.047	△ 0.094	3,711,200
12/21（木）	22,866.10	0.055	113.40	△ 0.046	△ 0.094	3,697,500
12/22（金）	22,902.76	0.045	113.33	△ 0.044	△ 0.088	3,704,100

来週（12月25日から12月29日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
12/25 (月)	クリスマス 10月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)		New York、EURO、London祝日 (Christmas Day)
12/26 (火)	日本経済団体連合会審議委員会にて黒田総裁講演 金融政策決定会合議事要旨(10月30,31日分 8:50) 11月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 11月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 12月都区部・11月全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 11月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 11月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	2Y 22,000億円 1/15発行	EURO祝日(Christmas Holiday) London祝日(Boxing Day) 10月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数
12/27 (水)	11月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)		12月の米CB消費者信頼感指数
12/28 (木)	決定会合における主な意見(12月20,21日分 8:50) 11月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 11月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50)		
12/29 (金)	証券取引所大納会		12月のシカゴPM景況感指数

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
12/25 (月)	▲ 2,300	▲ 9,000	▲ 11,300	全店共通 CP買入 社債買入 ETF買入 国債補完	▲ 3,100 ▲ 1,100 ▲ 100 400	5,200 1,500 300	3,100	▲ 8,200	TB3M発行▲44000償還34600
12/26 (火)	▲ 3,000	▲ 4,000	▲ 7,000	短国買入		10,000	10,000	3,000	流動性供給▲5500
12/27 (水)	▲ 2,000	3,000	1,000				0	1,000	
12/28 (木)	▲ 1,000	▲ 1,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	
12/29 (金)	100	▲ 1,000	▲ 900	CP買入		5,000	5,000	4,100	
週間合計	▲ 8,200	▲ 12,000	▲ 20,200	—	▲ 3,900	22,000	18,100	▲ 2,100	

12/25は日銀予想、12/26以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、25日から28日までの無担保コールO/Nは▲0.06～▲0.04%と、今週と横ばいで推移すると見られる。年末29日の無担保コールO/N加重平均レートは、取り手が減少し、レートが低下することが見込まれる。

レポ市場は、12月末越えの取引のレート動向が注目される。

短国市場は、入札の予定がなく、海外勢もクリスマス休暇に入ることに加え、短国買入オペも実施されない見通しであることから、閑散なマーケットとなることが予想される。

CP市場は、来週は月末週となるため、年末越え案件が中心になると見られる。発行レートは0%から浅いマイナス圏での決着が予想される。また26日にはCP等買入オペがオフア額5,000億円で予定されている。月末の市場残高減少が見込まれる中、オフア額は前回と今回の2回に渡り増額されており、落札レートが低下するかどうか注目される。

主要なイベントとしては、26日に11月の全国CPI、日銀・金融政策決定会合議事要旨（10月30,31日分）、28日に決定会合における主な意見（12月20,21日分）などが挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまふようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によりリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録書等をよくお読みください。